

島原コース上の注目スポット



シオのみどころ

秩父が浦公園

1792(寛政4)年雲仙岳の活発な火山活動によって、島原市の背後に美しい稜線をみせている眉山が大崩壊し、大量の土砂が城下町を埋め、海中になだれこみ空前の大惨事をおこしました。公園の前に見える島々(流れ山)がその時の名残の九十九島(つくもじま)です。

秩父が浦は海の公園として親しまれ、昭和45年に島原半島県立公園に指定された景勝の地です。

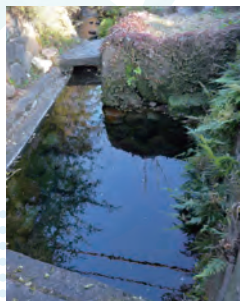


われん川

シオのみどころ

1792(寛政4)年の噴火活動で出来たといわれる湧水スポットで、人々の生活の水源として活用されていましたが、1991(平成3)年6月30日の大規模な土石流がこの地を襲い壊滅的な被害が生じました。

しかし、この水源は、土石に埋もれることなく奇跡的に残りました。



仁田第一公園

シオを眺望

公園内には「雲仙普賢岳噴火災害犠牲者追悼之碑」も建てられおり、大火砕流が発生した6月3日には毎年沢山の方が訪れ、犠牲者の方の冥福を祈っています。

仁田団地第一公園では眉山の崩壊壁が観察でき、無数の流山が作った地形(九十九島等)が一望できます。



平成新山

シオのみどころ

平成新山は、ねばり気の強いデイサイトマグマが火口の上に盛り上がってきた溶岩ドームで、2004(平成16)年4月に国の天然記念物に指定されました。

現在の標高は1483mで、山頂周辺は警戒区域に指定されているため、立ち入ることができません。



がまだすドーム (雲仙岳災害記念館)

※オプション施設(有料)

シオを体験



火山を見る・体験する・遊ぶ・学ぶ・憩う。火山に関する知的エンターテインメントがギッシリ詰まった一大空間。1990(平成2)年11月に始まった雲仙普賢岳の噴火活動から1996(平成8)年5月の噴火活動終息宣言まで、何が起き、何が残ったのか。大自然的の驚異と、それに立ち向かった人々の英知をあますところなく展示しています。

(9:00~18:00(入館は17:00まで))

火砕流最長到達地点 (ふかえ桜パーク)

シオを体験



1993(平成5)年7月19日に発生した大火砕流は、山頂からおおよそ5.6km流下し、国道57号線を約80m超えたこの地まで達しました。火砕流や土石流が流れ下ったこの地も、今は家族連れが憩う公園になっています。

ひょうたん池公園

シオのみどころ

1792(寛政4)年に眉山が大崩壊した際の土砂がつくった小山(流れ山)の上であり、その大きさは現存する流れ山のなかで最大級のもです。

その表面の起伏を利用して池がつくられ、その後ひょうたん池公園として整備されました。



グルメ・お土産情報



かんざらし

白玉粉で作った小さな団子を「島原の湧水」で冷やし、特製の蜜をかけた冷たいスイーツです。

具雑煮

海の幸や山の幸など、十数種類の具が入った雑煮。島原の乱ゆかりの歴史的な郷土料理です。



有明ガネ

地元では有明ガネと呼ばれるワタリガニの一種です。



がんばの湯引き

島原では「ふく」のことを「がんば」と呼んでいます。肉厚の身を湯引きにし、弾力ある歯ごたえはやみつきになります!



チェリー豆

そら豆を油で揚げ、砂糖・ショウガ・水あめを煮たものでコーティングした豆菓子。砂糖の甘さと生姜の風味たっぷりの豆菓子上がっています。



手作りかんざらしキット

島原名物・かんざらしを自宅で楽しめる手作りキット。レシピ通りにつくると、地元で親しまれた懐かしの名店「銀水」の味わいが再現できます。



平成新山溶岩焙煎珈琲

平成新山と雲仙岳の溶岩石の遠赤外線効果を利用して焙煎した珈琲です。時間をかけて低温焙煎して、まろやかな味わいに仕上げられています。



島原焼

使い勝手がよく、さりげないセンスの光る陶器です。島原の土がベースで、雲仙普賢岳の火山灰が天然の釉薬。落ち着いた色合いで、手にする度に心が和みます。